

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月14日

【四半期会計期間】 第75期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)

【会社名】 株式会社N F Kホールディングス

【英訳名】 NFK HOLDINGS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 関口 陽介

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市鶴見区尻手二丁目1番53号

【電話番号】 045 (575) 8000 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 古池 政巳

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市鶴見区尻手二丁目1番53号

【電話番号】 045 (575) 8000 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 古池 政巳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 第3四半期 連結累計期間	第75期 第3四半期 連結累計期間	第74期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	1,283,269	1,958,518	1,839,799
経常損失(△) (千円)	△157,357	△47,459	△154,931
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失(△) (千円)	△163,807	△53,943	△175,980
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△173,666	△36,016	△183,532
純資産額 (千円)	2,870,395	2,824,513	2,860,529
総資産額 (千円)	3,935,695	3,870,172	3,864,806
1株当たり四半期(当期)純損失 金額(△) (円)	△5.33	△1.76	△5.73
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	72.9	73.0	74.0

回次	第74期 第3四半期 連結会計期間	第75期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日
1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△0.85	△1.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和策を背景に企業業績や雇用・所得環境の改善が継続し、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中国をはじめとした新興諸国の景気減速、英国の欧州連合（EU）からの離脱問題、米国の新政権への移行など、世界経済の不確実性が高まっており、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、平成26年4月にスタートさせた「16中期経営計画」に基づき、燃焼装置関連事業の海外展開強化、市場ニーズに対応した新製品開発、国内基盤固め及びトータル原価の削減に向けて様々な施策を実行してまいりましたが、原油価格の影響などにより石油・天然ガス関連向けの受注が低迷しているほか、輸出関連企業においても大型の設備投資案件に停滞感が漂うなど、当社を取り巻く経営環境は、非常に厳しい状況で推移いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高19億5千8百万円（前年同四半期比52.6%増）、営業損失5千万円（前年同四半期は営業損失1億5千9百万円）、経常損失4千7百万円（前年同四半期は経常損失1億5千7百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失5千3百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億6千3百万円）となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

① 工業炉燃焼装置関連

工業炉燃焼装置関連事業につきましては、国内外において非常に厳しい受注環境が続いたものの、前連結会計年度に受注した大型案件等があったことなどから、当第3四半期連結累計期間の売上高は19億5千7百万円（前年同四半期比52.7%増）となりました。また、利益面におきましては、一部の案件において収益率が想定を下回ったことなどから、営業損失は1億2千7百万円（前年同四半期は営業損失は2億2千1百万円）となりました。

② その他

その他の事業につきましては、各子会社からの配当収入、不動産賃貸収入、経営指導料等が収益の中心となっております。当第3四半期連結累計期間の売上高は2億1千8百万円（前年同四半期比0.2%減）、営業利益は2億円（前年同四半期比2.4%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べて0.1%増加し、38億7千万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3.4%増加し、28億4千4百万円となりました。主な内訳としては現金及び預金が5億1千9百万円の減少となったこと、受取手形及び売掛金が3億7千5百万円増加したことなどによりります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて8.0%減少し、10億2千5百万円となりました。主な内訳としては投資その他の資産が7千9百万円減少したことなどによります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べて4.1%増加し、10億4千5百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて7.4%増加し、6億5千3百万円となりました。主な内訳としては支払手形及び買掛金が1億3千6百万円の増加となったことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて0.9%減少し、3億9千2百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1.3%減少し、28億2千4百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失5千3百万円の計上などによるものであります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は7,576千円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	118,610,000
計	118,610,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	30,713,342	30,713,342	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	30,713,342	30,713,342	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	—	30,713,342	—	2,131,532	—	40,280

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,710,700	307,107	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,242	—	—
発行済株式総数	30,713,342	—	—
総株主の議決権	—	307,107	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数30個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社N F Kホールディングス	神奈川県横浜市鶴見区尻 手二丁目1番53号	400	—	400	0.00
計	—	400	—	400	0.00

(注) 上記以外に自己名義所有の単元未満株式16株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人元和による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,821,010	1,302,004
受取手形及び売掛金	※1 529,328	※1,2 904,874
仕掛品	186,183	212,946
原材料及び貯蔵品	153,998	181,585
その他	59,047	242,860
流動資産合計	2,749,568	2,844,272
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	89,541	83,845
機械装置及び運搬具（純額）	50,015	48,630
土地	703,022	703,022
その他（純額）	6,952	6,478
有形固定資産合計	849,531	841,977
無形固定資産		
ソフトウェア	4,579	2,631
無形固定資産合計	4,579	2,631
投資その他の資産		
投資有価証券	108,792	134,534
破産更生債権等	28,850	28,400
その他	187,221	81,644
貸倒引当金	△63,737	△63,287
投資その他の資産合計	261,125	181,291
固定資産合計	1,115,237	1,025,900
資産合計	3,864,806	3,870,172

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	230,607	367,101
短期借入金	10,400	35,900
未払法人税等	8,163	6,431
賞与引当金	37,692	18,660
完成工事補償引当金	1,062	4,024
工事損失引当金	-	12,416
前受金	65,943	30,126
その他	254,366	178,513
流動負債合計	608,236	653,174
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	196,601	196,601
役員退職慰労引当金	20,583	20,583
退職給付に係る負債	176,310	170,310
その他	2,544	4,988
固定負債合計	396,040	392,484
負債合計	1,004,276	1,045,659
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,532	2,131,532
資本剰余金	40,280	40,280
利益剰余金	247,475	193,532
自己株式	△210	△210
株主資本合計	2,419,077	2,365,134
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,064	12,126
繰延ヘッジ損益	-	735
土地再評価差額金	446,516	446,516
その他の包括利益累計額合計	441,452	459,379
純資産合計	2,860,529	2,824,513
負債純資産合計	3,864,806	3,870,172

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	1,283,269	1,958,518
売上原価	979,402	1,572,687
売上総利益	303,866	385,831
販売費及び一般管理費	463,745	436,444
営業損失(△)	△159,878	△50,613
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,554	2,640
仕入割引	703	1,364
持分法による投資利益	-	2,724
貸倒引当金戻入額	450	450
その他	850	3,536
営業外収益合計	4,559	10,715
営業外費用		
支払利息	204	223
持分法による投資損失	823	-
為替差損	985	7,195
その他	23	142
営業外費用合計	2,037	7,561
経常損失(△)	△157,357	△47,459
特別利益		
保険解約益	877	-
特別利益合計	877	-
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△156,479	△47,459
法人税、住民税及び事業税	7,328	6,483
法人税等合計	7,328	6,483
四半期純損失(△)	△163,807	△53,943
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△163,807	△53,943

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純損失(△)	△163,807	△53,943
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10,373	17,190
繰延ヘッジ損益	-	735
土地再評価差額金	514	-
その他の包括利益合計	△9,859	17,926
四半期包括利益	△173,666	△36,016
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△173,666	△36,016
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形割引高	33,920千円	35,990千円

※2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	一千円	10,427千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
減価償却費	18,940千円	17,176千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月22日 取締役会	普通株式	30,712	1.00	平成27年3月31日	平成27年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	工業炉燃焼装置 関連	その他	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,281,919	1,350	1,283,269	—	1,283,269
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	217,536	217,536	△217,536	—
計	1,281,919	218,886	1,500,805	△217,536	1,283,269
セグメント利益又は損失(△)	△221,983	196,195	△25,787	△134,090	△159,878

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△134,090千円には、セグメント間取引消去△636千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△133,453千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	工業炉燃焼装置 関連	その他	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,957,168	1,350	1,958,518	—	1,958,518
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	217,199	217,199	△217,199	—
計	1,957,168	218,549	2,175,717	△217,199	1,958,518
セグメント利益又は損失(△)	△127,438	200,991	73,553	△124,166	△50,613

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△124,166千円には、セグメント間取引消去△299千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△123,867千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
1 株当たり四半期純損失金額(△)	△5円33銭	△1円76銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△163,807	△53,943
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額(△)(千円)	△163,807	△53,943
普通株式の期中平均株式数(株)	30,712,932	30,712,926

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

1. 重要な訴訟事件等

当社の連結子会社である日本ファーンエス株式会社が、平成27年3月11日付で東京地方裁判所において、宇部興産機械株式会社より、訴訟の提起を受けております。

①訴訟の提起があった年月日

平成27年3月11日(訴状送達日 平成27年3月27日)

②訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名

会社名：宇部興産機械株式会社

所在地：山口県宇部市大字小串字沖野山1980番地

代表者：代表取締役 久次 幸夫

③訴訟の原因及び提起に至った経緯

当社の連結子会社である日本ファーンエス株式会社が、平成25年に宇部興産機械株式会社(以下、「原告」という。)に依頼した製作請負契約に関し発生した請負代金について、原告からの請求額と当該製作請負契約に基づき支払を要する額との間に大きな隔たりがあったことなどから、これまで話し合いによる解決を模索して参りましたが合意に至らず、今回、本件訴訟が提起されるに至ったものです。

④訴訟の内容及び損害賠償請求金額

訴訟の内容：請負代金請求

請求金額：3億6909万746円

⑤今後の見通し

当社といたしましては、原告の請求金額については到底全額につき認められるものではなく、現在、本件訴訟において、当社の考えを適切に主張しております。

なお、本件訴訟が当社の今後の連結業績に与える影響につきましては、現時点では不明です。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月14日

株式会社N F Kホールディングス
取締役会 御中

監査法人元和

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中 川 俊 介 印指定社員
業務執行社員 公認会計士 加 藤 由 久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社N F Kホールディングスの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社N F Kホールディングス及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。